

黒田官兵衛の役割解説

静岡 小和田氏が講演



徳川時代の歴史的意義を研究、発信する徳川みらい学会（会長・芳賀徹 県立美術館）

（長）の第5回講演会が1日、静岡市葵区の市民文化会館で開かれた。静岡大の小和田哲男名誉教授が「徳川家康と黒田官兵衛」と題して講演した。小和田名誉教授は、



「徳川家康と黒田官兵衛」をテーマに講演する静岡大の小和田哲男名誉教授
＝1日午後、静岡市葵区

黒田官兵衛が小寺家中田軍を破ったという情で一目置かれるようになったのは「織田信長からだ」と解説した。徳川家康連合軍が武その後、官兵衛は豊臣

秀吉の片腕として仕えたという。秀吉の死後は「官兵衛は隠居し、家督を息子の長政に譲った」と説明し、「自身は秀吉の天下取りを支え、長政は家康の天下取りを支えた。官兵衛は、親子2代で戦国乱世に終止符を打つ結果に関わり、満足していただろう」と話した。